

地域防災力向上に向けた取り組み事例 ～ 湖南省宮の森地区の例 ～

滋賀県湖南省宮の森区

宮の森自治会
宮の森防災企画委員会
2020年3月作成

持続可能な人材確保は可能か？

1. はじめに

16年前に、旧石部町と旧甲西町が合併して湖南省が誕生しました。宮の森区は旧石部町に約45年前、桃畑を整地して住宅にした戸建ての団地です。いわゆる「オールド・ニュータウン」といった場所です。やや高台にあり、洪水の危険は少ない場所です。滋賀県全体でも、災害の少ない市と言われており、住民の危機意識はあまり高くないと思われます。しかし、地球規模の気候変動や大地震の予想など危機は確実に迫っていると認識しております。

宮の森区が危険だと想定している事は、

1. 強風や、地震による家屋の倒壊。→ 築40年以上の木造家屋が多く、耐震強度も十分でない家が多いと思われること。
2. 高齢化率が35%と高く、避難行動がスムーズに出来ない。→ オールド・ニュータウンに特徴的な現象。
3. リーダーの担い手不足。→ 一億総活躍社会の影響？

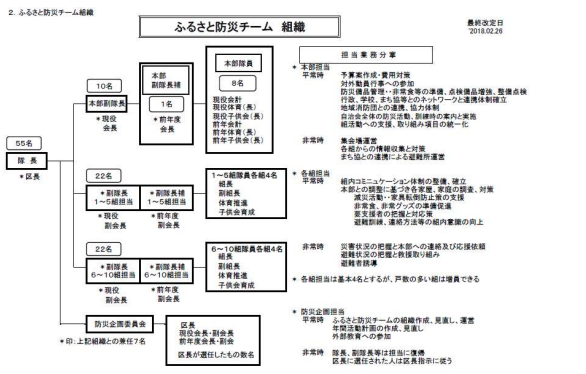
2. 湖南省宮の森区での取り組み

2-1 防災組織の検討

湖南省の主導した「防災士資格取得支援事業」により、宮の森区で毎年1人の防災士を誕生させました。現在9名の防災士がおります。この防災士の方の中から数名の方に協力をいただき、検討会を重ね、現在の組織にしました。

2-2 防災組織の特徴

- ①総員 55名
- ②基本的に2年交代
- ③本部組織、組組織、防災企画委員の3組織編成



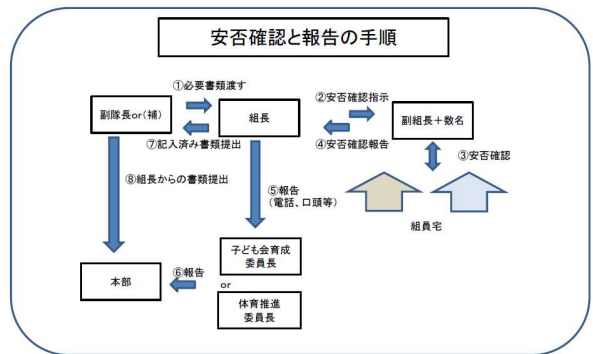
2-3 防災訓練

1年に2回の訓練を実施しています。



安否確認のためのタオル掛け訓練、ライングループの入り方の説明

安否確認と報告の手順図



避難所運営訓練の様子



3. まとめ

宮の森地区では湖南省の約2倍の速度で高齢化が進んでおります。少子高齢化と一億総活躍社会の進展により、自治会活動などの地域福祉活動に精力を裂ける人材が減少してまいります。これからの防災活動を推進する人材をどのように確保していけば良いのかが最も悩ましい課題だと思っております。

宮の森高齢化率推移

